

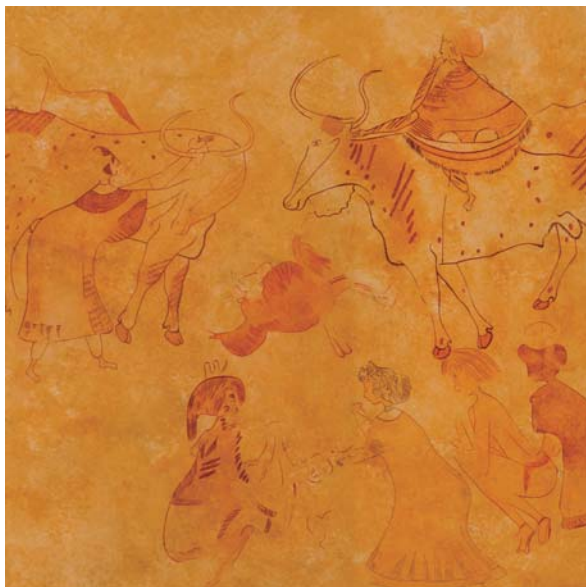
1970年アンリ・ロート調査隊制作
 Y マルタン、P コロンベル 模写
 フランス国立自然史博物館—人類博物館所蔵

サハラ遊牧絵巻

日本の絵巻や屏風絵のように、遊牧民の生活の一部始終が語られる物語になっていっています。物語は右から左に向かって進みます。

② キャンプをたたむ

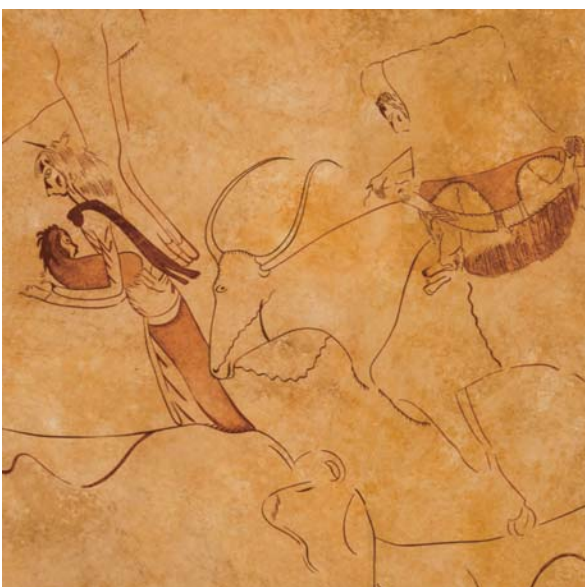
右の老齢の女性は牛の背に乗り、左の女性は牛に鞍を取り着けようとしているようです。



実物はかるうじて判読可能

③ 移動

男性は子供を抱いて歩き、女性は牛の背に乗って移動。男女とも顔にペインティングをしているように見えます。



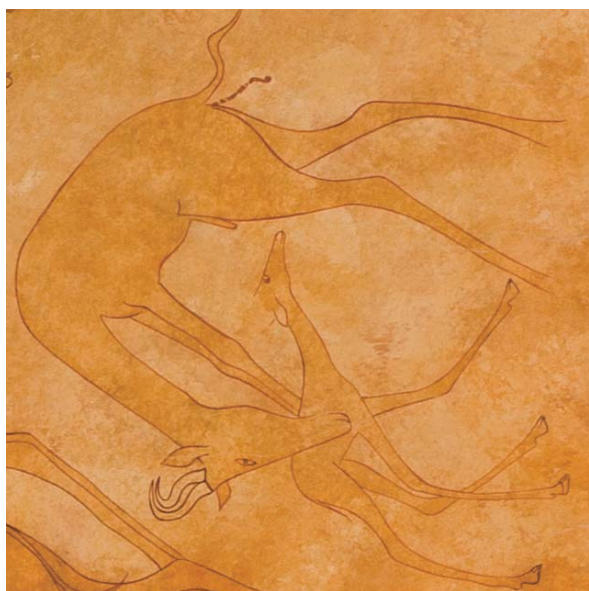
④ 新しい土地に到着

男性は荷を解き、女性はテントの設営。弓のような棒はテントの支柱。最近までツアレグ族も同じようなテントを持ち、女性が管理していました。



① 草原の動物

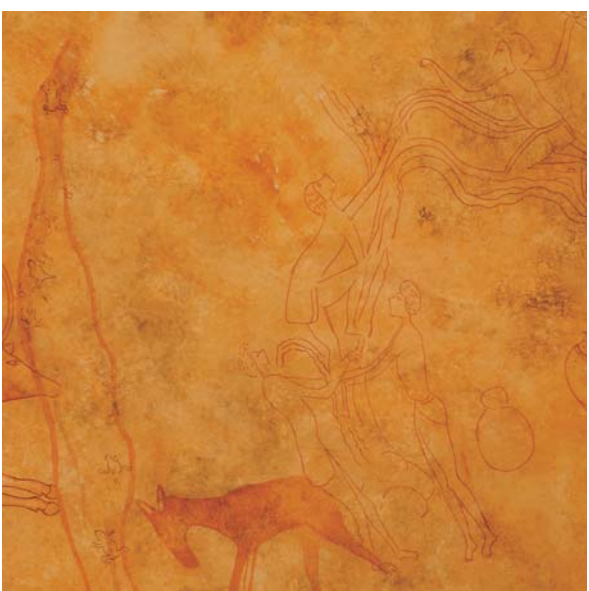
キリン、ガゼル、オリックス、ダチョウなどが群れています。母親と子供の場面多く、優しい眼差しで美しく描かれています。ガゼルの子供は生まれたばかりで、母親のお尻には後産が描かれています。



実物は判読困難

⑤ 小川の蛙と木の実取り

岩の割れ目を小川に見立て、蛙が描かれています。木に登った人々は木の実取りでしょうか。先史岩壁画で木が描かれているのは大変珍しいことです。



実物は判読困難

⑥ 水場の牛

岩の割れ目を水場に見立て、牛が水を飲んでる場面です。牛は横からの姿ですが、角は正面に近い角度から描かれています。ラスコーなど旧石器時代の岩壁画にも見られる疑似遠近法です。



キャンプの生活

岩壁画の左半分では、すでにキャンプに落ち着いた人びとの暮らしが、そこで起きるべき事などが仔細に描かれています。

ライオン狩り

キャンプにライオンが侵入して羊を襲いました。人々は槍を持って退治に向かいます。

⑧ 槍を投げようとする人々

後ろの二人は顔にペインティング（または刺青）をしているようです。左手に持つ鉤状のものは狩りの道具でしょうが、⑨⑩の人々も持っています。



⑨ ライオン、羊、山羊

臆病な羊は逃げ惑い、独立心が強い山羊は自分に危害が及ばないと判断して高みの見物。性格の違いが描写されています。



⑩ ライオン退治に向かう人々

この二人は羊を連れていきます。羊をおとりにして、ライオンを仕留めようとしているのでしょうか。



家畜の世話、家族や仲間たちとの団らんなどキャンプでの生活場面が多く描かれています。団らんの中心には、ストローで飲む飲み物の壺があります。これは古代ビールと推測されています。ストローは液面に浮かぶ麦がらなどを避けるために使われたようです。ビールはメソポタミアで紀元前4000年ごろ作られるようになり、紀元前3000年にはエジプトでも普及しました。同時期に2000キロ以上離れたイヘーレンでも飲まれていたようです。

⑦ 羊に餌を与える少年



⑪ 家族団らん

テントの前で飲み物の壺を囲んでの団らんのようです。女性のファッシオンはとても凝っています。背の高いボネット帽、首飾り、肩掛け、複雑な編み目の長スカートなどオシャレです。



⑫ 見つめ合う二人

テントの中から顔を出している女性（あるいは男性？）と見つめ合う男性。



実物はかろうじて判読可能

実物は痕跡は認められるが判読困難

⑬ 飲み物を前にした二人の女性
後ろからのぞき込んでいる女性は待ちきれない様子ですが、飲んでいる女性は譲りたくない様子にも見えます。心の機微が感じられる場面です。



実物は痕跡は認められるが判読困難

⑭ テントの前に集う人々

手前では、女性と子供たちが家畜の世話。中央では、男性が飲み物を飲んでいますが、左側の男性がストローを取り上げようとしているようです。後ろに並んでいる二人は飲み物の順番待ちでしょうか。タキシードのようなおめかしをしています。中央左には赤ん坊をあやす男性。奥では、テントの中から身を乗り出して頬杖をついている女性。その前に男性が二人。なにやら意味深な場面です。



実物は判読困難

⑮ 儀式あるいは舞踊

岩壁画の中で唯一宗教的とも感じられる場面です。右側の男性は、右手に先の尖った棒を持ち、左手には輪のようなものを持って両手を掲げています。この男性の髪は鳥の形をしています。鳥の剥製を被っているのかも知れませんが、左側の男性たちも尖った棒を振り上げています。



これで岩壁画を探検する準備は整いました。さあ、岩壁画写真へ！